

# 令和6年度 半田市総合計画市民評価委員会 議事録

|             |   |               |
|-------------|---|---------------|
| 開催日時        | 令和6年10月28日(月)   | 13時00分~14時30分 |
| 開催場所        | 半田市役所4階 庁議室   |               |
| 会議次第        | <b>【議題】</b><br><b>第5章 基本施策3 「行財政」</b><br>(1) 所管課長説明<br>(2) 質疑<br>(3) 評価   |               |
| 出席委員        | (副委員長) 鈴木 (座長)<br>(委員) 榊原、沢田(貢)、岩浪、上野 ※敬称略  |               |
| 事務局         | 企画課長、企画課(斎藤・倉野・武田)  |               |
| 出席職員        | 企画課長、財政課長、人事課長、総務課長、収納課長、デジタル課長、市民課長、税務課長   |               |
| <b>議事概要</b> |   |               |
| (1) 所管課説明   | 資料及び事前質問回答に基づき、説明(企画課長)   |               |
| (2) 質疑      | <p>(副委員長)<br/>まず、本日欠席の桑山委員からの質問をする。<br/>行政サービスの向上のためDX化を進めており、高齢者や機械操作が苦手な方への対応についての事前質問に対して、そのような方を対象とした相談会を実施しているとある。DXに関する取組を行うことは大切であるが、全てをDX化するのではなく、既存の運用方法と併用していく必要があると考える。現時点での市の考えを聞かせてほしい。</p> <p>(デジタル課長)<br/>既存の運用方法と併用していくべきだと考えている。様々な手続きの中でも、特に主要なものをデジタル化し、行政効率をはかっていく。</p> <p>(副委員長)<br/>デジタル化することで、市民が困るような手続き等に対して何か措置を講じているか。</p> <p>(デジタル課長)<br/>スマホ相談会を実施しており、昨年度から開始して今年度も継続している。市役所1階の入口付近で毎週火曜日、ひとり30分の枠で、できる限り予約をしていただいて相談を受付けている。</p> <p>(副委員長)<br/>スマホの機能がわからない方が来るのか、スマホを使って市の手続きをすることが難しい方が来るのか、どちらか。</p> <p>(デジタル課長)<br/>特に限定はしていないので、どのような方に来ていただいても構わないが、スマホそのものの使い方がわからないという問合せが多い。</p> <p>(委員)<br/>財政運営について、具体的にどのような指標をおきながら運営をしているのか</p> |               |

を知りたい。

(財政課長)

まず、全体的な話で総合計画冊子 P87 財政運営の部分において、歳出と市税収入決算額とあるが、市民にとって一番わかりやすく、また、半田市の税収の根幹をなすところであるため、市税の収納率を指標としている。

(委員)

収納率とはなにか。

(収納課長)

市税として入ってくる予定の額に対する実際に収納した金額の割合を示す。

(企画課長)

総合計画冊子 P93 に基本成果指標一覧があり、 $\text{収納率} = \text{当該年度収入済額} \div \text{当該年度調定額}$ と示している。

(委員)

収納額ではなく収納率を指標とする意味はあるか。

(財政課長)

色々な考えがあるかと思う。収納額は景気の良し悪しに左右されがちである。収納率を指標とすれば安定した財政運営が可能になり、また、全国的な比較もできる。客観的な指標として収納率を採用している。

(委員)

チャレンジ 2030 において、適正な財政運営のために新たな指標を活用するとあるが、収納率だけだと適正な財務状況の把握ができないので、新たな指標を活用するというのか。

(財政課長)

「新たな指標（財務書類 4 表など）」は、国の基準に基づき作成し、既に公表している。将来的な財政運営のために、今の半田市の財政がどのような状況にあるのかという視点で見ると、これらの指標を活用していくことが大切であるということを行っている。

財務 4 表における 4 つの指標の中で主なものとして、貸借対照表がある。資産と負債があるが、半田市では負債が増えすぎないようにすることを主な指標としている。実質公債費比率は全国で比較ができる指標になる。半田市は現状良い数値になっているが、今後 10 年で様々な公共施設の更新が増えることで借金や負債も増えていくので、そのような指標も留意しながら財政運営していくことをチャレンジ 2030 で掲げている。

(委員)

必要な行政サービスが提供されていると思う市民の割合が令和 2 年度から上がった理由について、市民アンケートの設問の注釈を変更したことが大きな要因と考えられると事前質問へ回答しているが、そうであれば、目標値は見直した方がよいのではないか。

令和 3 年度以降の達成度が下がってきていることに注目をした方がよいのではないか。

(企画課長)

当初の市民アンケートは、行政サービスが何を指しているのかが明確ではなく、答えにくい状態であったため、注釈を加えた。その結果、アンケート回答者も答えやすくなり、令和 3 年度で達成度が上がったのではないかと考えている。

注釈を加えたことに伴い、目標値を見直すという考えはなかった。

令和 7 年度に総合計画の中間見直しがある。委員の意見を踏まえながら最終目標値を整理していこうと思う。

(副委員長)

アンケートの方法を変えて達成度が上がったのであれば、最終目標値もそれに合わせて変える必要があるという考えがある一方で、最初の数値を基準に評価していくのであれば、目標値は変えないほうがよいという考えもある。どちらを取るのか決めることが難しいが、中間見直しがあるため、その際に整理ができればよいと思う。

(委員)

公立保育園の民営化について、建物老朽化に伴うことや、民営化によるメリット・デメリットについて納得いくところもあるが、公立保育園の運営について、延長保育時間の延長や保育士の待遇改善を検討していくなど、既存のものからの改善を検討していくのか、民間の特色に頼っていくのか。

(企画課長)

具体的な内容は、今回の評価対象施策ではないため民営化について回答すると、半田市の公共施設総合管理計画や保育園等の公民連携の更新計画において、自治体がやっていく部分は残しながらも、ある程度は民間に任せることが今後のサービス維持にかかせないという考えのもと進めている。人口が減り、税収が減ることで、限られた財源のなかで市民に一定のサービスを提供していくとなると、民間の良い部分を活かすためにも連携が必須になってくる。

(副委員長)

資料の指定管理者一覧に載っているところ以外に、公民連携や指定管理者制度を使うとよいと考える施設はあるか。

(総務課長)

今のところない。

(副委員長)

民間の事業者に指定管理を行うことで、利用者の満足度が上がった等の結果は出ているのか。

(総務課長)

各事業課における各公共施設のサービス満足度については、個別の施設担当課が把握しているもので、統括的に答えられない。

(委員長)

次回以降は、そのようなアンケート結果もあるとよい。

半田市独自で財務 4 表の指標を使って計画策定等はしているのか。

(財政課長)

半田市独自で考えていることはない。あくまでも、比較材料としている。しか

しながら、将来的には、施設ごとに減価償却の状況や、負債と手数料・使用料の水準等の適正化の参考資料になり得るかどうかが課題である。

(副委員長)

適正課税率の定義を教えてください。

(税務課長)

全体の納税義務者数に対する、課税誤りをしていない義務者の割合のことをいう。

(副委員長)

滞納繰越分の収納・停止率が令和4年度の62.22%から令和5年度は72.66%へ急激に上がっているが、その要因は何か。

(収納課長)

現年課税分の収納率を高い水準で維持できていることにより、他の業務に取り組む時間が生まれ、課題であった業務に取り組めた結果だと考える。

(委員)

令和6年度の特徴的な事業の中に、小学校敷地内に放課後児童クラブ等の機能を集約するとあり、このことに関して様々な親の意見もあるがどのように考えるか。

(企画課長)

放課後児童クラブや児童センターなどの機能が一つに集まることになる。子どもの居場所を確保するだけでなく、今後の人口減少を見据え、行政サービスを持続的に維持していくという面でも、意見を踏まえながらも施設管理を集約的に進めていく必要がある。

(委員)

デジタル化の推進により、税金がクレジットカードでも支払うことができるようになるなど、便利になってよいと思う。  
ゆびナビとは何か。

(市民課長)

市民課窓口にタブレット型端末を設置している。マイナンバーカードを読み取ることで、住民票等を取得する際に住所や氏名の記入を省いて申請をすることができる。

(委員)

久世市長に変わって、財政運営において大きく変わったことはあるか。

(財政課長)

はたらく親を応援するまちということで、3か年実施計画の中で子育て事業に関するを中心に実施している。  
日常的に、各事業課において何ができるかを考えながら小さなところから予算要求をしているところである。

(委員)

大きな事業を実施しているというよりかは、小さいことの積み重ねというイメージでよいか。

(財政課長)

例えば、お昼寝布団を保育園で用意するなど、保育園の登園サービスなどで具体的に実施している事業もある。

(企画課長)

市では、財政運営を効率的に進める傍らで、チャレンジということも掲げており、新たな取組も進めている。その中でテーマとして令和6年度から「はたらく親を応援するまち」を開始している。教育・子育て支援策として捉えられがちであるが、人口減少対策であり、半田市が選ばれるまちとなり、今後も魅力的なサービスを提供するためには税収を確保する必要がある。そうすることで一定のチャレンジもできる。

(委員)

行政運営に関しては、特に令和6年度より「はたらく親を応援する」というテーマを中心に大きく変わってきたということだが、財政運営に関しては、大きな変化はないということか。

(財政課長)

はたらく親を応援することで、将来的な人口を減らさない対策となる。その結果として税収を確保し財政基盤の安定化に繋げることはできるかと思う。

(企画課長)

資料の半田市の予算(概要)の特徴的な事業の中で、1番上にはたらく親を応援する施策が来ているように、このような施策に重点的な財源配分をしている。

(副委員長)

主要事業評価シートはPDCAに分かれていて非常にわかりやすいと思うが、次年度予算への反映は間に合うのか。

他自治体だと、見直している間に次年度予算編成が始まってしまい、さらに翌年度に反映されるようになってきているというところもあるが。

(総務課長)

3年ほど前からこのようなシートに統一をしている。

予算に反映されているのかという意味では、総務課で評価シートの結果を受け止め、財政課にも内容を共有し、同時並行で事業の評価と予算の査定を行っている。

評価結果を予算金額に反映することについて、市民委員や市議会から意見をいただきながら、我々も多角的な視点を持って取り組むべきだという認識はあり、事業の評価から予算の編成まで一連の流れで実施することをねらったシートである。

(副委員長)

必ずしも、次年度の予算に反映できればよいというものではない。横の繋がりを持って、事業評価し、改善を図っているということがわかった。

(財政課長)

副委員長が述べたことは長年課題だと認識している。職員向けの予算説明会においてもPDCAを意識して予算編成をするように説明している。

各課の事業の改善、縮小の方針を財政課も理解したうえで予算編成を行い、各課との相違が生じないようにしている。

|        |  |
|--------|--|
|        | <p>(副委員長)<br/>各課との情報共有がされていることが重要であり、その結果として少しずつ事業が改善されていくことが市民にもわかるようになるとうよい。</p> <p>(委員)<br/>令和 3 年度から必要な行政サービスが提供されていると思う市民の割合の基本成果指標が下がっているが、その理由として考えられることはあるか。</p> <p>(企画課長)<br/>行政に対する課題は複合化してきている。行政サービスに求めるニーズが大きくなると、色々な視点で評価をしていただくことになる。極端に評価が下がることは良くないが、課題が増えるほど、厳しい評価になるのではないかと考える。また、昨今のデジタル化の推進等による利便性向上によって、市民からの評価は一時的に上がるが、それが常態化すると再び評価は下がってしまう。</p> <p>(副委員長)<br/>コロナの影響もあるのではないか。<br/>コロナ禍では、行政の活動が市民に見えやすくなるので、その結果として行政サービスが提供されていると感じる市民の割合も多くなったのではないか。<br/>しかしこれが常態化するにつれて、評価は徐々に下がってくる。必要な行政サービスが提供されていると思う市民の割合が下がりすぎることは良くないが、上がり続けることは考え難い。</p>                            |
| (3) 評価 | <p>(委員)<br/>〈B 評価〉<br/>久世市長が就任し、テーマ性を持った特徴的な事業を推し進めていこうとしていることがわかった。<br/>しかし、なぜそのテーマをもって事業を推進していこうとしているかが市民に伝わっていない部分については改善してほしい。</p> <p>(委員)<br/>〈A 評価〉<br/>行政運営については、久世市長の明確な方針があり、それが各事業に反映されており、達成度もクリアしている。しかし、令和 3 年度以降達成度が下がっているため A とした。<br/>財政運営については、指標は達成していないものの、戦略的なテーマに併せて様々な事業にまたがって財源の配分をしている。事業運営の管理についても課題を把握して色々な取組を進めていると感じたため A とした。</p> <p>(委員)<br/>〈B 評価〉<br/>デジタル化が推進されており、業務効率の改善に取り組んでいることは評価できる。一方で、システムの使用頻度が低いことは、市民の利便性だけでなく職員の業務改善という面でも大きなインパクトになるので、力を入れてほしい。<br/>必要な行政サービスが提供されていると思う市民の割合の最終目標値を 50% に設定していることについて、その数値がふさわしいのか疑問に思うところがある。</p> <p>(委員)<br/>〈A 評価〉</p> |

行政運営は向上していると思う。様々な取組が行われている。収納率が高く、財政面も安定しているといえるのではないかと期待している。

(副委員長)

〈A 評価〉

DX を活用して市の行政サービスの生産性向上を目指す姿勢は評価できる。財政運営を積極的に行っているのにも関わらず、そのことを市民に上手に周知できていないことについては改善してほしい。将来的に少子化になって市の税収がどれだけ下がるのか等の具体的な数値を示すと市民にとってもわかりやすいのではないかと期待している。

(副委員長)

最終的な評価の決定は次回 12 月 19 日の会議で行う。